

# 科学よもやま話

佐藤 勝昭

## 第13回

### 「何でもQ&A」に見る最近の技術者

新年おめでとうございます。この連載を始めてはや1年が経ちました。本年も、科学技術の話題を通して、現代社会の問題点の指摘や改革への提言などをしていきたいと考えていますのでお付き合い下さい。去年は、スケッチに関連した話から科学につなげるというスタイルをとりましたが、話題に限られるので、今号からは話と絵とをリンクさせないことにしました。

私が研究室のホームページに「物性なんでもQ&A」というコーナーを開設してから5年になります。メールで寄せられた物性関係の質問に対してメールでお答えし、そのやりとりを編集してWebに貼り付けています。これまでに約700件のQ&Aがアップされています。質問は大手メー



ルクセンブルグの冬景色 佐藤 画

カー企業の研究職、技術職、大学院学生など、研究・開発に関連したものが主流ですが、最近は、さらに、沖縄の中学生の「夕日の色の変化の仕組み」、静岡の高校生の「トンボの紫外線視感度」、建築関係者の「鉄、アルミ、ステンレスの熱膨張係数」など幅広い層におよび、インターネット検索もここまで日常的になったかと感慨深いものがあります。

しかし、本来なら図書館に行っているような文献を調べるべきなのに、ハンドブック代わりに安易にインターネット検索に頼っているような気がします。

私は、決してインターネットで情報を得ることを否定しているわけではありません。上手に利用すれば、得られる情報の幅が広がると思っています。英語で検索すると日本語の何百倍もの情報が見つかります。特に、欧米の大学の授業用サイトは信頼性があります。日本ではほとんど研究されていないマイナーなテーマでも世界中探せば見つかります。世界にはいろんな人がいるものだと感心することしきりです。

確かにインターネットは便利ですが、得られる情報の危うさをいつも認識してはなりません。インターネット情報は、その真質を見抜くことが必要です。このためには、受け手に確かな基礎的知識と、情報をフォローする努力が必要でしょう。

「なんでもQ&A」でお答えしながら感じることは、企業の技術者や大学の研究者の周りには非常に多くの「わからないこと」があるということです。

私は、こういうニーズにお応えするのも大学の役割だと考え、「物性なんでもQ&A」を開設しております。ぜひ、サイトを訪れて下さい。

URLは <http://www.tuat.ac.jp/~katsuaki/nandemoQ&A.html> です。

(東京農工大学 副学長)